

8月 定例山行 草津まち歴史の散歩

広島市西区草津町

8月8日（日） ☆天気 晴れ

参加者15名 C L 吉岡俊二

江本、花房、田所、成広、島田、秋信、若木、原田、三重、三浦
滝、坂井、竹野、熊本(会友)

コースタイム 草津公民館 9:00→慈光寺→鷺森神社→幸神社→海蔵寺→草津八幡宮→
小泉家→淨教寺→教専寺→西楽寺→大釣井と地蔵尊→三島家→
一本松と石碑→安芸国養蛎の碑 11:30

報 告

9時、全員が揃ったところで、草津まち案内人：宮川さんより挨拶があり、今日は足を痛めたので藤井さんにお願いしたと紹介があった。藤井さんは、暑い時期だけに熱中症対策に努めて水は随時取るよう指示がある。最初は、公民館より近い慈光寺から始まり、寺なのに境内に鳥居があるものだった。続く、鷺森神社・幸神社・海蔵寺・草津八幡宮は至近距離に神社仏閣が混合しており、説明では、古く飛鳥推古天皇時代から室町時代の謂れがある物件で、境内で芝居興行された鷺森神社。江戸元禄時代に造られた石組の庭がある海蔵寺。飛鳥・推古天皇時代、多紀理姫乃命を祀ったといわれ、大般若經六百巻・けんか神輿が有名とされている草津八幡宮等。漁港の町として栄えた面影が感じられた。中間点、淨教寺では国内最大級の「臥龍の松」が見ごたえあった。教専寺は、武士が頸如上人の教えを受け僧となり住居を寺とした本堂の造りに特徴のある建物だった。薬師如来堂は「おやっくさん」と呼ばれ、眼病に効く「薬師」として、遠近よりの信者がたえないという。

幸福稻荷は昔、草津が大火や災害に苦しんだので、神頼みとして建立された。続く、西楽寺の境内墓地には、牡蠣のヒビ建て養殖法を始めた「小森五郎左衛門」の墓があ

る。そして、大釣井と地蔵尊は、古く草津において歴史に残る大火が5回もあり、地蔵尊は火災を無くするために祀られたといわれ、それ以後大火がなくなりいまだに厚い信仰の対象となっている。大釣井は1600年のころからあったものと思われ、街道を往来する人の飲料水、防火にも役立つたと思われる。残り少なくなって、三島家のだて3階建てを見る、庄屋の家として凝った造作が注目された。次の一本松と石碑は、江戸時代、旧草津港を抱くようにして埋め立てられ記念に一本の松を植えられたもの、今は、その松が夏風に吹かれ少し淋しそうに見えた。最後に、現在漁民会館の一部となっている安芸国養蛎の碑（小林五郎左衛門が「ひび立て」のカキの養殖法を考えた）の説明を受け終了となつたが、この小さい町並みの中に西国街道を挟んで多く歴史の宝庫があるので驚かされた。草津まち案内人の藤井さん、暑い中、長時間に亘っての案内をして頂き厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。また、参加の皆さんも長時間、お付き合い頂き感謝いたします。それと、昼食の時のビールは格別でしたね。（記 吉岡俊二）